



Jan. | 2024
 沖縄開教本部通信
 vol. 109



※「ハイサイ」…沖縄の言葉で「こんにちは」のこと

沖縄の「不平等」に向き合う

なぜ基地と貧困は

沖縄に集中するのか？

第二十四回

非戦・平和沖縄研修会

「開催主旨」

四年ぶりの非戦・平和沖縄研修会を開催いたします。この間、沖縄の置かれている状況は「悪化」しているといえるでしょう。「負担軽減」と政府は言い続けていますが、現実は無人数爆撃機が新たに配備され、台湾海峡の「危機」なるものを想定して、沖縄本島ではなく、宮古・石垣の島々に、基地が配備されています。そして「世界一危険」とされる普天間基地の移設を「一刻も早く」と言いますが、早くて二〇三七年。そして「移設が終わる」まで普天間は維持されます。

ところで沖縄には、基地問題だけでなく、他にも重大な社会の課題が山積しています。その一つが「貧困問題」です。特に子どもの貧困率*は全国の上の倍です。また様々な経済指標においても、沖縄県は常に下位を占めています。「米軍基地があるから豊かだ」との誤解がありますが、常に米軍基地があり続けているにもかかわらず、沖縄の経済は決して下位から脱することがありません。なぜでしょうか。今回の研修会では、講師に安里長

第24回 非戦・平和沖縄研修会 日程表(予定)

2024/4/23-25

1日目	4月23日(火)	2日目	4月24日(水)	3日目	4月25日(木)
		8:50	バス乗り場集合/ホテル予定	8:50	乗り場集合
		9:00	出発	9:00	出発
			現地学習 中北部基地ほか		別院参拝 講話・座談ほか
					閉会式
13:00	受付			14:00	出発
13:30	オリエンテーション			15:00	空港着 解散
14:30	講義①				
16:30					
18:00	懇親会(自由参加)	18:30	解散 夕食各自		
	解散				

※都合により日程・講師を変更することもありますのでご了承ください。

氏(司法書士)『なぜ基地と貧困は沖縄に集中するのか?』(著)をお招きし、沖縄の置かれている現状が、いかに「本土優先」「沖縄劣後」という不平等な関係にあるのかをお話しいただきます。「平等」は真宗門徒にとっても大切な課題です。この「不平等」に向き合い、座学とフィールドワークを通して一人ひとりが「歩いて、見て、考え」る研修会を開催します。

皆さまのご参加お待ちしております。

*内閣府「子供の貧困に関する指標(沖縄県の実況) ①子供の相対的貧困率」より

【概要】

期 間 2024年4月23日(火)～25日(木)
 会 場 那覇セントラルホテル、沖縄本島各地
 集合日時 2024年4月23日(火)午後1時
 講 師 安里 長従 氏(司法書士)
 ガイド 沖縄平和ネットワーク予定
 参加費 5,000円 (※懇親会は希望者のみ別途5千円程度予定)
 ※往復旅費と宿泊費は全額自己負担となります。各自手配下さい。
 募集人員 30名(定員に達し次第締め切ります)
 申込方法 申込用紙に必要事項を記入の上、沖縄開教本部までお申し込み下さい。
 申込締切 2024年4月15日(月)までに沖縄開教本部必着のこと。FAX可。
 申込先 Email:okinawa@higashihonganji.or.jp FAX:098-890-2491
 その他 ①参加申し込み者へは、追って詳細をお送りします。

【注意】旅行手配の前に、必ず参加申し込みが締め切られていないかご確認ください。

※詳しくはホームページをご覧ください。



平井真人作 紅型「共命之鳥」

沖縄は今！

首里城復興祭

二〇一九年十月に火災に
あい、その後コロナ禍で開
催されていなかった首里城
祭が十一月三日～五日の三
日間、首里城公園を主会場
に「首里城復興祭」として
久しぶりに開催された。沖
縄別院から首里城再建の募
金を募った際は、全国の御
門徒からも多くの御協力を
頂いた。

報恩講堪能

十月二十日、二十一日
と沖縄別院の報恩講が勤
まった。今回の講師はスイ
ス出身のジェシー釋萌海氏
を招き、ご自身の人生の経
験から「いのちはだれのも
のですか」ということを
テーマにお話いただいた。
初めて本山の前を通った
時、目にした御遠忌のテー
マ「今、いのちがあなたを
いきている」に対して気
も留めなかった。しかし母

初日は琉球国王の正月参
詣の様子を再現する古式行
列が、国王や王妃ら約二百
人の行列が奉神門から守礼
門、龍潭通りを練り歩い
た。最終日には、国際通り
で琉球王朝絵巻行列が四年
ぶりに行われ、「御轎(う
ちゅう)」と呼ばれる乗り
物に乗った国王・王妃によ
る琉球国王王妃行列を先頭
に、中国皇帝の使節団や伝
統芸能団に扮した総勢四百
人が練り歩いた。かつて国

親の安楽死をどう受け止め
て良いか苦しんでいる時、
再び目にした御遠忌のテー
マが心に深く印象付けられ
たという。機縁が熟すると
いうことがあるのだと感じ
るエピソードであった。
また今年はお斎も開催し
た。参加者には、英語やド
イツ語が堪能な人もおら
れ、講師と多言語で会話し
るなど、有意義で楽しいひ
と時となった。このように
して、親鸞聖人の教えが世
界に伝わっていくのだと感



王行列の際に奏でられた路
次楽も披露され、現代版の
組踊もあった。その他にも
首里城復興祭特別見学ツ
アーや琉球芸能公演など多
彩な催しも行われた。沿道
はたくさんの人で賑わっ
た。

じる場面であった。



イーソーグワチデービル
(新年 明けまして
おめでとうございます)

沖縄の言葉ではお正月は「良いお正月ですな」と
あいさつする。しかし最近では「明けまして」と
言っているようではあるが。近年沖縄では、琉球語
である「島くとうば」を取り戻す活動も活発で、私
の娘も小学校のアナウンス部では、沖縄の言葉でお
昼の放送をしていたと聞いている。

ところで沖縄では地域差はあるものの、今も旧暦
の正月を大切にしている風習が残っている。一九八三年
に刊行された『沖縄大百科』(沖縄タイムス社)に
よれば、新正月の事を「大和正月」(ヤマトソー
グワチ)、旧正月の事を「沖縄正月」(ウチナーソ
ウグワチ)と呼んでおり、当時は旧正月が主流であ
ると記述されている。しかし現在では新正月が主流
となつているように思われる。琉球国が併合されて
およそ百五十年、正月も「大和」化が進んでいるよ
うで、伝統が無くなっていくのは残念である。

実はもう一つ沖縄には正月がある。「十六日」
(ジュールクニチー)である。「後生」(グソー)の
正月といわれ、死者の為の正月である。沖縄本島の
多くの地域では墓参りは四月の清明の節に行われる
が、離島地域の多くはこの「十六日」(旧暦一月十
六日)に墓参する。沖縄別院でも位牌やお骨をお預
かりしているの、新正月、旧正月、正月十六日、
それぞれ参拝が多くなる。本年も参拝する人々と共
に、本願念仏の教えを聞いていきたい。

クトウシン ユタサルグトウ ウニゲーサピラ
(本年も宜しく願います)

沖縄別院 輪番 長谷 暢